

# Glocal Tenri



月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.25 No.9 September 2024

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

9

## CONTENTS

- ・ 巻頭言  
羅生門効果  
／井上 昭洋 ..... 1
- ・ 天理教の異文化伝道と「文化」の「翻訳」  
(13)  
ヨーロッパにおける天理教の伝道の諸相②  
／加藤 匡人 ..... 2
- ・ 台湾の社会と文化—天理教伝道史と災害民族誌 (21)  
天理教布教所の仏教寺院化  
／山西 弘朗 ..... 3
- ・ 社会福祉からみる現代社会—天理教の社会福祉活動に向けて— (最終回)  
不登校支援における天理教の社会福祉活動 (2)  
／深谷 弘和 ..... 4
- ・ イスラームから見た世界 (30)  
イスラーム神学者の仕事②—天理教学のすすめ  
／澤井 真 ..... 5
- ・ コロンビアへの扉—ラテンアメリカの価値観と教への伝播— (35)  
8. コロンビアへ！教への伝播 1 「コロンビアとバナナ」  
／清水 直太郎 ..... 6
- ・ ニューヨーク通信 (21)  
アメリカ伝道庁創立 90 周年を終えて  
／福井 陽一 ..... 7
- ・ おやさと研究所ニュース ..... 8  
「2024 年度天理大学アメリカス学会夏定期例研究会」で発表／第 369 回研究報告会 (7 月 29 日) / 2024 年度公開教学講座のご案内

## 巻頭言

### 羅生門効果

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

「羅生門効果」とは 1950 年に公開された黒澤明監督の映画『羅生門』に由来する社会科学の用語である。1988 年にアメリカ人類学会の学会誌で発表された論文 The Rashomon Effect: When Ethnographers Disagree (羅生門効果:エスノグラファーの意見が異なる時)が、この用語の起源と思われる。文化人類学では、同じフィールドを調査した研究者の間で対象文化について全く異なる解釈がなされる場合がある。この論文は、そのような問題を解決するためには、真偽を見極めようとする実証主義的なアプローチより、構築主義的アプローチで調査そのものを検証すべきであると提唱する。欧米の知識人は黒澤明の映画についてよく知っているので、この論文のタイトルの Rashomon Effect の意味するところをすぐさま理解するだろう。私が留学中に受けた人類学の授業でもこの論文は扱われ、学生たちは「ああ、あのアキラ・クロサワのラシヨウモンね」という体で意見を述べ合っていたように思う。

映画『羅生門』は、芥川龍之介の短編小説『藪の中』を原作とし、同じく彼の『羅生門』から舞台設定を借っている。平安時代のとある山中、盗賊が昼寝をしていると、侍夫婦が通りかかった。妻に目をつけた盗賊は夫を騙して縛り上げ、彼の目の前で妻を強姦する。その後、現場には夫の死体が残され、妻と盗賊の姿はなかった。これが事件のあらましであり、羅生門で雨宿りしている杣売りと旅法師が、同じく雨宿りをしていた下人に検非違使所でなされた関係者の証言について説明する形で、物語は進行していく。盗賊と侍の妻、殺された侍の証言は三者三様であった。盗賊は、侍の妻が「男同士で戦って生き残った方について行く」と言うので決闘の末に侍を倒したと主張し、侍の妻は強姦された自分に対する夫の蔑みの目に耐えられず錯乱状態で縛られている夫を殺したと述べる。一方、殺された侍は巫女の口を借りて、妻が盗賊に「あなたについて行くので夫を殺してくれ」と頼む姿を見て絶望し、二人がその場を去

た後、自害したと証言する。

茂みの中から事件の成り行きを目撃していた杣売りは、三人の証言を下人に説明した後、彼の見たことを話すが、その内容は盗賊が侍を殺したという点で盗賊の証言と一致するものの、盗賊と侍が決闘するに至った理由も決闘の様子も盗賊の説明とは全く異なるものであった。だが、客観性を期待される第三者としての杣売りの証言により、ほとんどの人は侍を殺したのは盗賊であると考えただろう。ところで、侍にとどめを刺した武器は盗賊と杣売りの証言では盗賊の刀であり、侍とその妻の証言では妻の短刀であったが、その短刀は現場に残っていなかった。一方、侍は誰かが自分に近寄り胸に突き刺さった短刀を引き抜くのを薄れいく意識の中で感じた（巫女の口を借りて）証言するが、巫女の背後でそれを聞いていた杣売りは驚きの表情を浮かべる。そのような伏線があり、最後に下人が短刀を盗んだのは杣売りであると見抜くに至って、信頼できると思われた彼の証言にも疑念が生じる。こうして事の真相は「藪の中」のまま、物語はエピローグに入っていく。

この『羅生門』のあらすじを知っていれば、「羅生門効果」と聞いて、それは一つの出来事について関係者が互いに矛盾した解釈を行ってしまうような現象を指しているのということが分かる。この物語の場合、現場に定点カメラを置いて録画しておけば、スポーツのビデオ判定のように、より正確な判断を下せるかもしれない。しかし、映像データでも事の真相を明らかにできない場合もある。2010 年 9 月に尖閣諸島沖で中国漁船衝突事件が起きた。その動画はネット上に流出して今も視聴可能だが、日本の巡視船と中国漁船のどちらに非があったのかは、同じ映像を見ても日本人と中国人とは判断が分かれるに違いない。立場が異なれば同じ出来事についての解釈が異なるという点では、『羅生門』のエピソードと何ら変わらないのである。